

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第十小学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのノートやプリントでの文作りや絵日記などを書いた結果、促音、拗音、助詞（は・へ・を）の理解に課題がある。 ・授業の発言や発表などこれまでの学習の結果、人前で、大きな声ではっきり話をすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短文を書く学習や宿題を通して、正しい書き表し方やマスの使い方を習得させ、正しく文章が書ける児童80%を目指す。 ・朝の会での日直のスピーチや、帰りの会（よかったこと・頑張ったこと）の発表を通して日常的に話すことに慣れさせ、はっきり発表できる児童90%を目指す。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の授業から、ブロック操作や指を使うことで、10までのたし算やひき算が自力解決できることが分かった。 ・1学期の授業から、演算決定をすることに課題がある。特に問題を読んで場面を思い描くことを苦手とすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックや具体物を操作する活動を行い、数のイメージや量感を捉えさせることを継続することで80%以上の児童が具体物なしで計算できることを目指す。 ・問題場面をイメージさせるため、絵・半具体物、アレイ図等を活用した学習の工夫を繰り返し行い、80%以上の児童がワークテスト（思考・判断・表現）で80点以上取れることを目指す。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の授業から、社会及び自然などの生活経験の差により、活動や気づきを広げること課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物に触れたり、身近な人々と接したりするなど、実際に体験して感じる事が十分にできるよう学習計画を立て、児童同士の学び合い・振り返りの時間を設定し、ワークシートに気づきを記入できる児童80%以上を目指す。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の授業から、登場人物の心情に自我関与させることはできる。一方テーマについて自ら振り返ることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて考えられるよう写真や絵など教材提示の仕方を工夫し、自己を振り返る時間を確保することで、自身の考えを発表したりワークシートに振り返りを記述したりできる児童80%以上を目指す。

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第十小学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストの平均点が60点台から80点台にまで伸び、満点の児童が20から30%へと増えたが、漢字の定着には課題がある。 1学期の授業から、「は・へ・を」、句読点、カタカナ言葉を使って作文を書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み練習や、ホワイトボードを使った書き練習、間違いを正確に直すことを習慣づけ、平均点85点以上を目指す。 『丸・点・かぎ』の授業や、ベーシックドリルを活用しルールを教える。週1回の日記指導や普段のノート指導で意識させ、しっかりと直すことを継続し、80%の児童ができるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の結果、くり上がりのたし算、くり下がりのひき算を自力解決することに課題がある。 1学期の授業から、「時刻と時間」の学習内容に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールや授業の始めの時間に、フラッシュカードや習熟プリントを活用し、徹底して反復練習をすることで、約90%の児童の確実な定着を図る。 模型の操作などを行うことで数学的活動を工夫するとともに、机間指導等で学習状況を把握する。定着度が低いところのワークを作成・実施し、約85%の児童ができるようにする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の授業から、自分の考えをもち、活動をとおして考えを広げたり新たな気づきに注目したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物に触れたり、身近な人々と接したりするなど実際に体験し、感じることでできる機会を多く設定する。観察の視点（比較・見ているもの・していること等）を与える。交流活動を多くすることで、気づきをさらに広げ深められるようにし、90%程度の児童が自分の言葉で表現できるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の授業から、きまりやルールを守り友達と協力して仲良く活動することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めに守らせるべききまりやルールを確認し、中盤終盤に振り返る場を設けることで、約90%の児童がきまりを守って体育の授業に参加できるようにする。

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第十小学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の授業から、教材文の読み取り後に、自分の考えを書き表すことに課題がある ・「1学期に習った漢字」のテストの結果、既習した漢字の習熟及び文章を書く際に正しく使用することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人程度の少人数グループで編成した話し合い活動を定期的に行い、お互いの考えを聞き合う活動を通して、自分の考えに近い意見と表現方法を知るきっかけをつくり、児童全体の90%以上は自分の考えが書けるようになることを目指す。 ・漢字のテストの前には、学級全体で漢字の読み書きを確認し、一字ずつ丁寧に書かせる。文章を書くときには、既習した漢字を使用する習慣を身に付けさせ、日頃から正しい漢字が書ける児童が全体の90%以上になることを目指す。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「時こくと時間」単元末テストの結果、時刻と時間の計算に課題がある。 ・「かけ算」と「たし算とひき算の筆算」の単元末テストの結果、かけ算の特定の段の九九及び繰り上がりや繰り下りの計算に課題がある。 ・「わり算」の単元末テストの結果、題意を正しく読み取ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導の際に、具体物の操作やアレイ図での表現など、習熟度に応じた指導を行うとともに、繰り返し指導することで、小テストで達成率70%以上の児童80%以上を目指す。 ・予想や見通しをもてるような発問をしたり、習熟度によって解法を選べるようワークシートを用意する。自ら取り組もうとする児童90%以上を目指す。 ・各単元末テストが終わった後に、課題に挙げられた学習内容を扱った復習プリントやeライブラリーを取り組む活動を設定し、児童全体の90%以上が、学習内容を習熟できるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校のまわり」の単元末テストの結果、方位を正しく活用して地図を読み、地図から土地の特徴を読み取ることに課題がある。 ・1学期の授業から、見学で得た情報や資料を取捨選択をしまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間地図を使った導入を行い、地図に慣れ親しむことで土地の特徴を読み取ることが90%以上の児童ができるようになることを目指す。 ・情報をできるだけ項目に分けてまとめたり、同じ順番で話を進めたりしながら、テーマを常に意識付けし、そのテーマに合わせたワークシートを活用するなどして、自信をもってまとめられる児童の割合を90%以上を目指す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・「植物の育ち方」と「こん虫の育ち方」の単元末テストの結果、既習用語や自然現象等の仕組みについての理解に課題がある。 ・1学期の授業から、実験の結果から、分かったことを考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のふりかえりの際に、用語や自然現象等を確認する学習を行い、児童の学習理解を全体の90%以上にする。 ・実験前の課題づくりを丁寧に言い、実験方法や観察をノートに書かせるなど、実験前の学習準備を万全に行う。その上で、3～4人程度の少人数グループでお互いの考えを聞き合う活動を設定し、自分の考えに近い意見と表現方法を知るきっかけをつくることで、児童全体の90%以上が自分の考えがもてるようになることを目指す。

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第十小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 1学期のまとめテストの結果、個々の正答率にばらつきが見られた。毎週小テストを行っているが、正答率65%であり、正しく漢字を読み書きする力を定着させていくことに課題がある。 1学期の授業やワークテストの結果、中心となる語や文を使って、文章を要約することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、小テストを行い、必ず直しを提出させ、自主学習でテスト勉強の仕方を指導することで、確実に定着する力を身に付ける。学期末のテストで正答率80%以上を目指す。 要点をまとめる力を身に付けさせるために、どのような言葉が中心となるのかや、つなぎ言葉の意味や使い方を指導することで、要約できる児童80%以上を目指す。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 3年生のまとめテストの結果、くり上がりやくり下がりでの計算間違いや、九九の覚え間違いによって、わり算やかけ算の筆算で正しい答えをだすことができる児童が75%で課題がある。 1学期の授業やワークテストの結果、問題を線分図で表すことが定着しておらず、問題の意味を捉えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で簡単な計算プリントを取り入れる。基礎的な計算を繰り返し行うことで、学年末には正しく計算できる児童90%を目指す。 授業の中で、文章問題の場面を図に表現する活動を取り入れる。また、図を用いることで正しく立式できることを理解し、場面を図に表現できる児童80%を目指す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の授業およびワークテストの結果、正答率は70%であり、既習内容を用いて課題を解決することに課題がある。 1学期の授業結果、実験や観察に取り組む意欲は高いが、既習事項や理科的な事象(事実や出来事)からその意味や理由を書くことができる児童は70%であり、自らの考えを書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察の際は、既習事項を確認した後、実験・観察を行うことを通して、定着を図る。また、ワークテストでは、既習の内容を活用して正しく正解を書ける児童80%以上を目指す。 実験や実験結果を通して気付いたことを全体で共有し、自分の考えを書けるようにする。実験結果から自分が考えたことを書ける児童80%以上を目指す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の授業およびワークテストの結果、社会的な事象(事実や出来事)の理解についてはできているが、社会的な事象(事実や出来事)からその意味や理由を考えることには課題がある。 1学期の授業の結果、学習に取り組む意欲は全体的に高いが、学習の振り返りや、学習問題のまとめに対して自分の考えを書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書で使う資料の見方を全体で共有するなど、必要な情報を全員が確実に読み取れるよう指導する。その後読み取った事実から、その意味を考えさせる授業を展開し、社会的な事象の意味を考えることができる児童80%を目指す。 まとめの時間に授業のねらいを確認し、分かったことから自分の考えを振り返ることができるようにする。書くことが難しい児童には書く内容をいくつか指定したり、友達同士で考えを交流したりして、学習問題に対する自分の考えが書ける児童90%以上を目指す。

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第十小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストやワークテストの言語事項から新出漢字や言語事項を十分に理解している様子がある一方、習った漢字を活用することに課題がある。 1学期の授業から、自分で思った事や感じた事を表現する（発言したり発表したりする）ことに課題がある。また、学習定着度調査やワークテストにおいて自分の考えを表現する問題の正答率が60%程度になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールの時間を使い、新出漢字の復習や習熟の時間にあて新出漢字や言語事項を十分に理解している児童80%を目指す。 書く領域の題材において、児童の興味ある内容などについて調べ、まとめ、発表する時間を設定し、児童が発表する活動を積極的に取り入れ、発表に対して前向きに取り組める児童80%を目指す。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの結果から基礎的な計算力が身に付いておらず、小数のわり算や、簡単な面積を求める問題に課題がある。 学力調査型演習問題やワークテストの結果から、問題文を正確に読み取り、正しく立式することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 積や商の見通しをもちながら計算することを大切にさせ、かけ算やわり算の計算練習を多く取り入れることで、基礎的な計算力の向上を図る。学年末テストで正確に計算できる児童80%を目指す。 問題文を正確に把握できるよう、立式のヒントとなる言葉に線を引いたり、数直線図を用いて場面を整理しながら考えられるように支援する。ノートやテストで正しく立式できる児童85%を目指す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストの結果、大陸や海洋の名前や国土の気候や特色の理解に課題がある。 1学期の授業から、資料を適切に読み取ったり、情報と資料を結び付けて比較・分類することに課題がある。 まとめる、いかす学習において、社会的な事象に関して既習事項や実生活の経験と関わりを理解することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器などを用いてそれぞれの特徴を押さえた知識の定着を図り、大陸・海洋名を全て理解できる児童80%以上を目指す。 読み取りを補助できる資料の作成や個別指導を通して、ワークテストの思考・判断・表現の平均点を85点以上を目指す。 授業では社会情勢のニュース等を扱うことで、自主的にニュースを読もうとする児童80%以上を目指す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストの結果、理科における重要単語の理解に課題がある。 1学期の授業から、実験が何のために行われているか、その実験を行うための条件は何かを踏まえ、考察が書けない児童が約40%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を使い、重要単語の復習を楽しく学習できるような工夫を行う。重要単語が理解できる児童80%以上を目指す。 実験をするときに、必ず条件制御についての確認をする。変える条件、同じにする条件は何か記述するようにする。ワークテストで思考・判断・表現の平均点80点以上を目指す。

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第十小学校 第6学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の授業から、言語への興味があるが、新出漢字の習得に課題がある。 令和6年4月実施の全国学力・学習状況調査では、他の項目の70～80%の正答率に対し、文中の語句を漢字に直す設問で53%の正答率であった。 授業においてワークシートを工夫したり学習課題を立て、叙述をもとに話し合う学習を行った結果、文章を書いたり、叙述の内容を読み取る学習の習熟は進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールを活用したスモールステップでの漢字学習を続ける。漢字の形や由来、同音異義語などの教材の取り入れを増やし、興味関心を高めることで、十分習得できる児童80%を目指す。 叙述を正確に読み取る授業を継続するとともに、読書への関心が高まるようさまざまなジャンルの本を紹介する。図書館司書と連携し、高学年児童が興味をもてる本を提示し、文章中心の本を借りる児童90%を目指す。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に行った東京ベーシック診断の結果は、平均正答率41.5%であった。密度や速度の計算や、面積や体積の計算での誤答が目立ち、正答率は5～30%であった。 全国学力調査の結果、既習事項の定着に課題がある。また、ベーシック診断正答率20%未満で課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中、学習内容が生活のどのような場面で生かされるのかを考えながら学習を進め、日常の中でも活用させるような声掛けや課題を出していく。2学期末のベーシックでは、正答率50%以上を目指す。 習熟度別指導を活用し、個々の児童の学力や意欲にあった課題や授業展開を考える。基本的なものから取り組み、少しずつでも自信をもって取り組めるよう工夫する。正答率20%未満の児童10%未満を目指す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の授業から、理科の学習に必要な単語の理解に課題がある。 1学期の授業から、考察場面で実験結果を基に結論を出すことはできるが、実験結果と生活場面を関係付けて考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入場面で復習したり、定期的なミニテストを実施したりしてワークテストの知識・技能で85点以上取れる児童80%以上を目指す。 考察時に「生活の中で今回の学習で使われている場面はないか」という声掛けをしたり、事象提示場面において生活経験が想起されるものを行い、実験結果と生活場面を関係付けて考えることができる児童約60%を目指す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の授業から、人物の功績や取組を他の人物の功績や取組と誤って認識している。 1学期の授業およびワークテストの結果から、社会的事象(事実や出来事)を基にその意味や理由を考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物の写真を黒板に掲示したり、人物事典づくりを行ったりしながら理解を深め、ワークテストの知識・技能で85点以上取れる児童80%以上を目指す。 社会的事象場面で「なぜ」と問いかけを行い、事象の意味や理由について考えられるようにし、80%以上の児童ができるように目指す。